

## 第20回 病態生化学セミナーのご案内

日時：平成21年6月5日（金曜日）午後6時30分～

場所：医学部 看護学科棟3階 会議室

演題：高次クロマチン構造の形成と維持の分子機構

演者：理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター  
クロマチン動態研究チーム

中山 潤一先生

真核細胞の染色体には、高度に凝縮したヘテロクロマチンと呼ばれる構造が存在する。この高次のクロマチン構造は、セントロメアやテロメアなど染色体機能ドメインの構築に寄与するばかりでなく、エピジェネティックな遺伝子発現制御にも重要な役割を果たしている。私達は、高次クロマチン構造の研究にとって優れたモデル生物である、分裂酵母（*S. pombe*）と哺乳類培養細胞を用いて、この構造形成の分子メカニズム解明を目指している。近年の解析から、ヒストンの特徴的なメチル化修飾（H3K9me）と、そのメチル化を認識して結合するクロモドメイン蛋白質（HP1/Swi6）の局在が、高次クロマチン構造形成に重要であることが明らかにされた。さらに最近の研究から、高次クロマチン構造の形成に、RNA干渉（RNAi）とよく似た機構の関与が解明されてきている。本講演では、高次クロマチン構造形成の分子機構、特にヒストンの修飾、クロモドメインタンパク質の機能、RNAi機構の関連について最近の知見を紹介したい。【中山 潤一】

連絡先：

浦野 健

島根大学 医学部 病態生化学

TEL 0853-20-2126

E-mail [turano@med.shimane-u.ac.jp](mailto:turano@med.shimane-u.ac.jp)